



# 看護部活動だより

## インドネシア人看護師の スピーチコンテスト優勝報告



—阿品土谷病院の看護師、トジさんを紹介します—

経済上の連携に関する日本国とインドネシア共和国との間の協定 (EPA) により、平成 20 年 8 月に来日し、神戸で 6 ヶ月間の日本語研修を受け、平成 21 年 2 月より阿品土谷病院で研修を行いながら、看護師国家試験合格を目指し、平成 23 年に合格、同年 4 月より、看護師として働いています。今年、2 年目看護師です。

今年 3 月に行われた「看護、介護にかかわる外国人のための日本語スピーチコンテスト」において、【難しかった日本語の事とおもいやりのある指導について】をスピーチし、トジさんが最優秀賞に輝きました。

(おめでとうー!!よくがんばったね!!)



地図:総務省統計局HPより引用

—スピーチコンテストが終わってトジさんにインタビューしました—

私は、日本の看護師として働いています。私の上司の百々看護部長より、“国家試験に合格することはゴールではなく、スタートですよ。”とよく言われました。去年からずっとそのことを強く感じています。

日本語もまだまだできない中、患者様のケアや職員とコミュニケーションをとることなどを考えないといけないから不安な日々も続きました。でも、このままではいけないことは実感していました。

国家試験の結果がでて間もなく、国際センターで、ある日本語の先生に巡り会って日本語の勉強を続けています。そして、去年末にインターネットのある記事に目が留まりました。看護、介護にかかわる外国人のための日本語のスピーチコンテストに関するお知らせでした。是非参加してみようと思いました。私としては、今までの日本語の難しさ日本人との触れ合いを話しただけのつもりだったが、私のスピーチがよかったと思われたらしく優勝してしまいました。

日本語スピーチコンテストに優勝しても必ずしも日本語が上手なわけではないから、これからも病院のために、周りの人のために、自分の国のために、ずっと勉強し続けたいと思います。“勉強は一生”だから。

阿品土谷病院 トジ

